

Be-News

別府大学のアツい想いをスクープ



別府大学
別府大学短期大学部

NO.131
2025 AUTUMN

Beppu University, Beppu University Junior College Magazine

Be-News

#自己分析 #就活準備
#ES添削 #面接対策
#インターンシップ

#就活 はじめます

クローズアップ別大生 研究室訪問 学びのトビラ 地域連携

編集／別府大学・別府大学短期大学部 広報室 発行日／令和7年9月30日 印刷／株式会社 佐伯コミュニケーションズ
別府大学・別府大学短期大学部 〒874-8501 大分県別府市北石垣82 TEL.0977-66-6262(広報室)
禁無断転載



LINE



真理はわれらを自由にする

Be-Museum



《自然光と静物》

青柳 彩花 (文学部 国際言語・文化学科 芸術表現コース 2024年3月卒業)

自然光とモチーフによってできる、その場の空気感を表現したいという思いで描きました。

視覚で捉えた時に印象に残る部分を描き込むことで、
写真では表すことのできない主観的で温かみのある空間を描くことを心がけました。

(油彩 F50号)



FSC
www.fsc.org

ミックス

紙 | 責任ある森林
管理を支えています

FSC® C172337



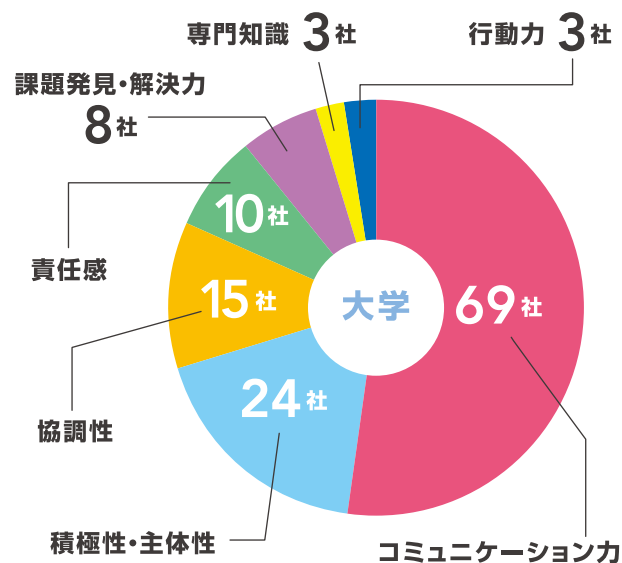
#就活

未来に向けて、 スタートアップ はじめます

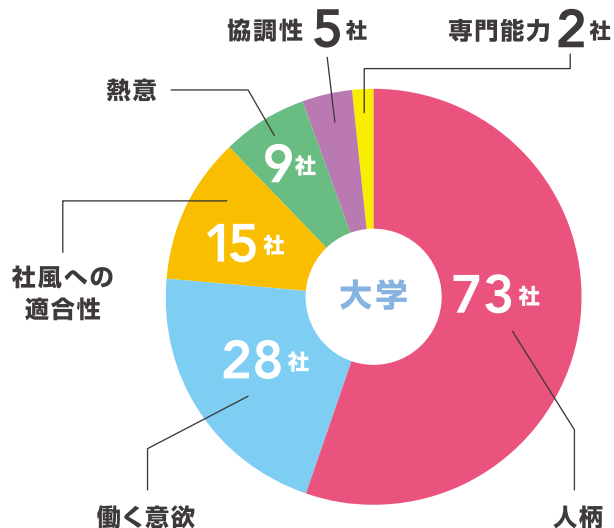
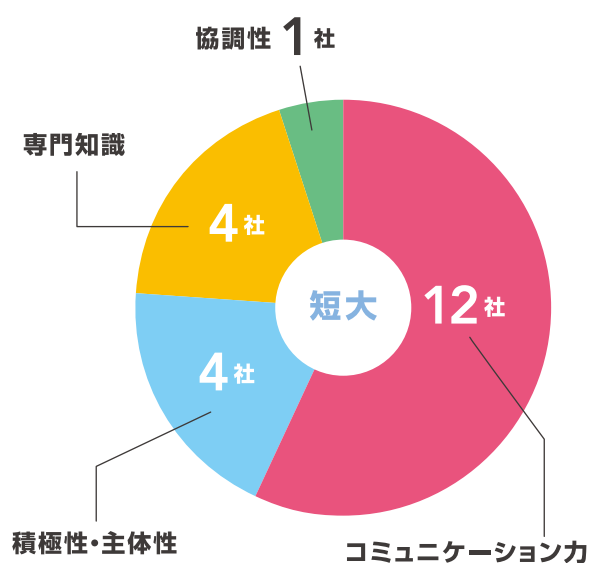
就職活動は年ごとに変化を重ね、近年は「早めの行動」が成功のカギといわれています。企業の選考方法も多様化し、学生の価値観に寄り添った採用が進む一方で、情報不足や準備不足で不安を抱える声も少なくありません。今回の特集では、企業アンケートや先輩の体験談を通じて、皆さんの就活に役立つ視点を紹介します。まずはこの記事を読ませて、就活への一歩を踏み出してみましょう。

雇用主アンケート 調査結果から

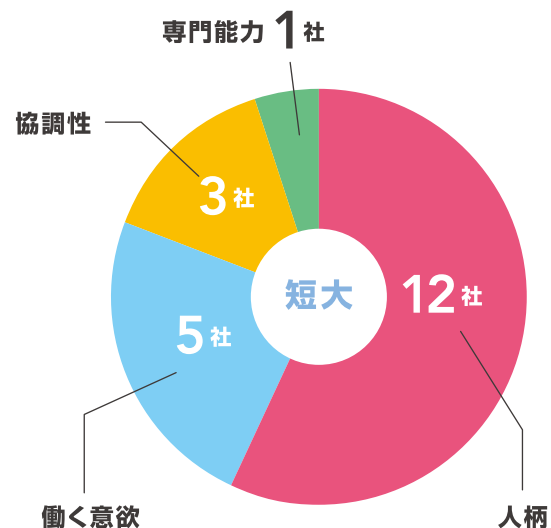
本学卒業生の就職先企業から、就職に関するアンケート調査を行いました。
以下のグラフは企業が求める「能力」と「事柄」の調査結果です。自身を振り返ってみてください。
※有効回答数：大学132社、短大21社



最も求める能力は



最も求める事柄は



NEWS & UPDATE

2025 AUTUMN

令和7年6月26日、本学は文化庁が推進する「日本遺産サポーター登録制度」において、「日本遺産サポーター大学」として正式に登録されました。

この制度は、令和6年4月に創設され、地域の文化資源を活用し教育・研究・地域貢献活動を通じて日本遺産の魅力を発信する高等教育機関を認定するもので、本学は地域文化への継続的な取り組みが高く評価され、全国で10校目、私立大学としては西日本初めて登録されました。

本学が連携する「六郷満山日本遺産推進協議会」（会長：佐々木敏夫豊後高田市市長）は、観光振興や文化発信、教育連携など多岐にわたる事業を展開しており、本学もその一翼を担うことで、地域との連携を深めながら、日本遺産の魅力を広く発信し、学生の学びと地域社会の活性化の両面に貢献してまいりました。

今後も学生・教職員が地域の文化資源に触れ、学び、発信する機会をさらに充実させるとともに、地域社会との連携を深める活動を積極的に展開してまいります。

TOPICS

別府大学が
「日本遺産サポーター大学」に登録されました!!

全国で10校目、私立大学としては西日本初の快挙



別府大学・日本遺産「くにさき」主催 「日本遺産サポーター大学」登録記念シンポジウム

歴史と観光が未来をつくる
— 別府大学と日本遺産「くにさき」の挑戦 —

申し込み / 参加費
不要 / 無料

令和7年10/4(土) 13:00～17:00
(開場11:30、途中休憩あり)

会場 別府大学石垣キャンパス
32号館400番教室

本シンポジウムでは、別府大学が果たすべき地域連携と人材育成の役割を多角的に議論し、将来への展望を拓くことを目的としています。

第1部 13:10～14:40

国東地域における連携の現在と展望

- 1 日本遺産「くにさき」と別府大学、協働の歩み
松本 卓也（豊後高田市文化財専門員）
- 2 「世界農業遺産」と「日本遺産」に
学ぶ水環境史の再構築
— 陸水系物質輸送の現在と過去 —
齋藤 圭（別府大学発酵食品学科 講師）
- 3 観光業から見た地域課題と大学への期待
クリスティ・ポール (Walk Japan Ltd. CEO
The Japan Travel Company株式会社会長)

第2部 15:00～16:20

人材育成における「歴史×観光」の可能性

- 1 博物館と文化観光 — 新しい観光を切り開く学芸員の課題と可能性 —
福西 大輔（別府大学史学・文化財学科 准教授）
- 2 「歴史×観光」人材育成の意義と展望
小野 貴史（別府大学国際経営学科 講師）
- 3 学生発表（各10分）「国東半島との出会いが拓いた私の進路」
対馬から国東半島へ — 日本遺産からの学びで見つけた私が歩む道 —
青柳 暖生地（別府大学史学・文化財学科 4年生）
国東半島と出会い、自分を知る — 観光と教育のあわいで —
矢野 七海（別府大学史学・文化財学科 3年生）

総合討論・講評 16:10～16:55

コーディネーター：赤松 秀亮（別府大学史学・文化財学科 准教授）



Be-News NO.131 CONTENTS

- | | | | | | | | |
|-----------|--------|------|---|---|-------------------------------|------------|------------------|
| 19 | 18 | 17 | 16 | 14 | 13 | 10 | 3 |
| インフォメーション | 学園事業報告 | 地域連携 | 学生広報企画ページ「V・Link」
今日はどっちで食べる？
学食探検隊 | クローズアップ別大生
日野 綺音さん
（食物栄養科学部 食物栄養学科2年）
小倉 海音さん
（短期大学部 初等教育科2年） | 研究室訪問 学びのトビラ
司書課程 准教授 佐藤晋之 | 学科からのトピックス | 特集
「#就活はじめます」 |

鳥越 大輝さん

日田市立南部中学校 教員

文学部 国際言語・文化学科
2021年度卒業
(大分県立玖珠美山高等学校出身)

学んできたこと、動いてきたこと、すべてが未来の力になる

自らが描いた 理想の教師像を目指して

今年で教員4年目を迎えた日田市立南部中学校の鳥越大輝さん。別大生時代には中学・高校の国語と英語の教員免許に加え、司書、司書教諭、日本語教員の資格まで取得しています。「小学生のときから教員になりたい」と思っていて、意志が固まったのは、中学時代の担任だった国語の先生との出会いです。高校入学後も、思い悩んだときに支えてくださるなど、とても親身な先生で、今でも交流があります。別府大学はその先生の母校でした」

ところが、就職活動が本格化する3年次にコロナ禍となり、苦難の時期を経験します。そんな中、「留学生はより



校内に茶園がある南部中。県の研究指定を機に、茶葉を使ったクッキーを地域の方にふるまう企画も実施しました

孤独を感じているのではないかと考え、国際サークルを結成しました。このほかにも、経済的に苦しむ家庭を対象に個人契約の家庭教師を始めたり、聖火ランナーを務めたりするなど、教員になる自身の未来像を描きながら様々なチャレンジを試みます。

「ドラゴン桜(模擬授業の会)を結成して学生同士で高め合ったり、授業以外にも先生方の指導を受けたり、アットホームな別府大学だからこそ、教員採用試験に合格できたと思います」
このように鳥越さんは当時を振り返ります。

教え子たちと 笑顔をつかち合う日々

「いろいろやってきましたが、いま振り返れば無意味なことはひとつもありませんでした。取り組んできた活動にしる、人とのつながりにしる、そのときは役に立つのかと疑問に思ったこともありましたが、



地域貢献プロジェクトでは、地域の清掃や、祇園祭への参加、募金活動など、様々な活動に取り組んでいます

最終的にはすべてが繋がっていき、実りを迎えるものなんだと実感しました」
晴れて教員になってからも、これまで得た経験を踏まえながら教壇に立ち、同校が独自に取り組むボランティア活動「地域貢献プロジェクト」にも、生徒とともに向き合います。「教員の仕事は大変だという声を最近よく耳にしますが、子どもたちの成長や笑顔にふれると、それ以上のやりがいを感じています」
鳥越さんの教え子たちも、きっと大きな手応えを感じていることでしょう。

就活応援
Message

あらゆる経験が将来の糧になる

福羅 実夕さん

生活協同組合
コープおおいた 管理栄養士

食物栄養科学部 食物栄養学科
2022年度卒業
(大分県立大分鶴崎高等学校出身)

卒業生
インタビュー
こんにちは
先輩!!

就活
編

管理栄養士としての資格を発揮できる職場とのめぐり合い

就活のスタートは キャリア支援センターから

福羅実夕さんが管理栄養士を目指したのは、まだ幼い頃だったといいます。「病院で調理師として働いていた祖母から、栄養士という職業があると聞いたのが最初です。別府大学食物栄養学科は大分県で唯一、管理栄養士を養成する学科と聞き、進学を決めました。実践的な授業も多く経験したので、今の仕事に役立っています」

就職活動を始めたのは3年生になってから。まずは学内のキャリア支援センターに足を運び、エントリーシートの書き方や先輩の紹介、各種説明会の情報を集めたそうです。「国家資格の勉強と並行しながらの就



子どもから大人までが参加する産直交流会は、組合員と生産者の現場をつなぐイベント企画です

活で大変でしたが、親身になって的確なアドバイスをいただき、頼りになる存在でした」

インターンシップで 夢を叶える職場を確認

生活協同組合コープおおいたへの就職は、インターンシップへの参加を経て本格的に考えるようになりました。実は、それまで生協がどのような活動をしているか「ぼんやりとしか把握していなかった」という福羅さん。しかし、食品や日用品の販売から共済、福祉、生活サービスなど幅広い事業を展開していることを知り、「この職場なら管理栄養士のスキルを生かせるかもしれない」と考え、就職試験にのぞみました。

試験そのものは筆記試験と、大学で対策講座を受講していたSPI適性検査などを経て、そこから最終面接へ。「何度も面接の練習をしていた効果があったと思います。あらかじめ準備してい



みかん農園を訪れ、産直商品の管理・点検をする福羅さん。チェック項目は100項目以上あるそうです

た志望動機などを丁寧に伝えたのですが、面接官の質問でもっとも印象に残っているのは「働き始めて何をしたいのか」と聞かれたことです。自分が学んできたことと照らし合わせながら、しっかりビジョンを描いておくべきですね」

入社後は生協店舗と共済部門を経て、現在は商品政策室で、組合員の声に耳を傾け、生産者につなぐ役割を担っています。「産直交流会などのイベントを通じて、より安全・安心な食に対する意識を高めてもらいたい」と、生き生きとした笑顔で話していました。

就活応援
Message

入社後に何をしたいか考えておく

天心保育園 栄養士 新銅 莉佳さん

短期大学部 食物栄養科
2023年度卒業
(楊志館高等学校 調理科出身)



子どもの目線に立った献立を考えることに生きがいを実感

調理師に加えて 栄養士の国家資格を取得

「子どもの頃から料理を作るのが好きで、大人に混じって地域の料理教室へ通う小学生でした」

こう話すのは短期大学部食物栄養科を卒業し、現在は大分市の天心保育園で栄養士として働く新銅莉佳さん。高校で調理師免許は取得しましたが、保育士のお姉さんの影響もあって、「栄養士として保育園の給食づくりに携わりたい」と本学へ進学。料理と栄養について基礎から学びなおしました。

「幼稚園児を対象とした食育活動では、大きな学びがありました。子どもに合わせた野菜の切り方や味の濃さ、好き嫌いを食べてもらう献立の工夫、そして



ゲームを通じて食材に親しむ試みも行っています

アレルギーに対する事細かな注意事項など、あらゆる角度から現場での実践力を養いました」

短大に届いた栄養士の求人は保育園・こども園、学校、病院など様々な職場がありましたが、現在働いている天心保育園への応募に絞り、1名限定の募集に対し見事に採用が決まりました。面接試験では、緊張しやすい性格を克服するため、先生や家族にお願いして何度も練習を重ねたそうです。

リアルな経験が 人を育てるチカラになる

「いろいろな経験を積んでおけば、その時に感じたエピソードを面接で語れるからと、課外活動には積極的に参加しました。農林水産祭『朝ごはん啓発運動』、子どもの栄養に関する研究会、各種コンテストへの参加など、数えきれないくらいです。こうやって実際に経験することは自信に繋がりますし、たくさんの人と



見るだけで楽しさが伝わってくるハロウィンのおやつに、子どもたちも大喜びでした

関わるので、人間的にも成長できたのではないかと思います」

職場の調理室は三人体制で、最初は盛り付けや食材のカットから始まりましたが、今では給食からおやつまで献立を考えるようになりました。「栄養が偏らず、飽きが来なくて美味しい献立になるよう心がけています。子どもたちから『美味しかった!』と声をかけられると、すごく嬉しくてモチベーションが高まります」

美味しく食事を楽しむ子どもたちの笑顔が目に見えそうです。

就活応援
Message

実体験が人を輝かせる力になる

大分県こころからだの 相談支援センター相談員 玉井 誠さん

大学院 文学研究科
臨床心理学専攻修士
2022年度修了
(クラーク記念国際高等学校 大分分室出身)



公認心理士として心に寄り添う仕事を通じて社会に貢献

“心の時代”に求められる 公認心理士の資格を取得

ストレス社会といわれる現代、うつ病や不安障害など心の病に悩む人は年々増加しています。例えば大分県内だけでも「引きこもり」状態の方は、程度の差はあれ約1万2千人を超えるそうです。(内閣府調査より)

そんな時代に新しく生まれた資格が公認心理士です。

玉井誠さんは、高校生の時に精神的ストレスで体調を崩しながらも、自ら克服した経験を社会に役立てようと、本学から公認心理士の資格取得を目指しました。文学部人間関係学科から大学院臨床心理学専攻を修了し、見事に国家資格を取得。現在は「大分県こころとか



大分県こころからだの相談支援センター。当センター着任前は児童相談所などへも配属されていました

らだの相談支援センター」で、支援を必要とする人たちの心に寄り添いながら働いています。

「大学ではカウンセリング理論に始まり、“傾聴の姿勢”など実践の学びに至るまで、広範囲の知見を身につけられました。大学院で、同じ立場の仲間同士が支え合うピアサポート活動を行ったことも貴重な経験になりました」

地方公務員として 心のケアに励む日々

現在勤務している支援センターでは、成人の引きこもりの方や、そのご家族のカウンセリングを担当しているそうです。辛抱強い支援が求められる分、ご自身の精神的負担も相当なものでは? 「趣味の釣りやゲーム、旅行などでストレスを解消しています。支援を続けるなかで少しでも回復の兆しが見えた時は、私も嬉しい気持ちになりますね」

ところで同センターは大分県職員とし



趣味などを通じたストレス解消の確保も重要。写真は旅行先のポケモン施設で撮った写真

での採用になるのですが、どのような対策を講じたのでしょうか。

「キャリア支援センターで、何度か面接の練習をしていただきました。おかげで想定外の質問を出されても、平常心で対応できました。注意しておくべきは、普段から一般教養を身につけておくことですね。それに加えて、大分県が何に力を入れているか、自分は心理職としてどう関わっていききたいかなど、大分県に対する思いも整理しておくといいでしょう」

公務員として心のケアに力を尽くすには、地元愛を育むことも大切です。

就活応援
Message

教養は毎日の積み重ねで育まれる

最初の一步を踏み出すには、ちょっとした勇気が必要な就職活動。実際に就活に取り組んでいる在学生おふたりに、どのように準備を進めてきたのか、どう乗り越えてきたのかを語ってもらいました。

いつ始めるの？ どう進めるの？

利光 就活を始めたのはいつからですか。

二宮 2年生の12月から本格的に動き始めました。友達と就職の話題になった時、既に企業研究を始めていた子がいって、刺激受けたのが始まりです。最初は企業研究から始めて、業界の特徴や会社の理念、働き方を調べました。今は自己分析やSPの勉強をされていて、インターンシップにも参加しています。実際に企業の人と話す機会もあって、すごく勉強になります。

谷本 私は3年生の6月にキャリア支援センターへ相談に行きました。友達

講座・面接の練習で 「自信」を育てよう

利光 キャリア支援センターが実施している面接練習や対策講座を活用しましたか？

谷本 私は3年生の秋から冬にかけて公務員受験対策講座を受けました。特にSCOA対策は助かりましたね。数学が苦手だったんですけどコツを教えてもらい、講座が終わった後もテキストを何回も見返して復習しました。

利光 マナー講座や面接練習にも、いち早く取り組んでいましたね。

谷本 話す内容だけでなく、立ち方とか姿勢とかも見られる

聞き手

利光 正仁さん

(キャリアコンサルタント
(キャリア支援課参事))

就活のリアルを聞いてみた

在学生の体験談に学ぶ

「就活の第一歩」はここから

プロの方から直接教えてもらい、自信ができました。

谷本 やはり面接では笑顔と熱意！内定者の体験談を聞くのもおすすめです。モチベーションも上がるし、リアルな情報が手に入るので情報収集はしっかりやるべきです！

キャリア支援センターが 全力でサポート

利光 二宮さんはボランティア活動にも積極的に参加しているそうですね。

二宮 別府市議会モニター、献血推進活動と、いろんなボランティアに参加しています。人と関わる機会が多いので、コミュニケーション力も鍛えられている気がします。

利光 そういふ活動は面接でもしっかりアピールできますね。継続して取り組んでいると、社会人になってからもきつと役に立ちますよ。

谷本 私はあんまりなかったですね(笑)。負けず嫌いな性格なので、「絶対やってやる！」って気持ちで乗り切りました。

二宮 ちひろさん
(発酵食品学科3年生)



参加者

内定済み

谷本 愛衣梨さん
(人間関係学科4年生)



悩める
就活生
は

キャリア支援 センターへ！

就職・進学・その他の進路に関する悩みや不安は、誰にでもあるもの。「キャリア支援センター」は、別大生の将来の夢や進路の実現を全力で応援しています。「ちょっと話を聞いてほしい」「履歴書の書き方がわからない」と、どんな些細なことでも構いません。学年に関係なく、いつでもみなさんの相談を受け付けています！

清潔感や第一印象の重要性、スーツのサイズ感や色の選び方などの説明に加え、挨拶や立ち居振る舞いなど、就職活動における基本的なマナーについても解説。「オンライン就活で成功するためのポイント」として、画面越しでも好印象を与える服装や背景、カメラの位置などについて解説を行います。

※指導協力 洋服の青山

インターンシップ&就活のための スーツ着こなし講座



09 Be-News

グループディスカッション 対策講座

最近では多くの企業が協調性やコミュニケーション能力を重視し、採用試験にグループディスカッションを導入しています。本講座ではグループディスカッションに臨む際の心構えや、企業が評価する視点について解説。実際のディスカッションも体験し、意見交換を重ねながら論理的思考力やコミュニケーション能力、協調性を養います。



Be-News 08

面接に向けて作った谷本さんの練習シート

No 04

高大連携 「明豊高校とのパン製作実習」

発酵食品学科

五感で感じる発酵のチカラ

令和7年6月3日、明豊高校食物進学コースの生徒6名が、本学発酵食品学科との高大連携の一環としてパン製作実習を行いました。

陶山明子教授と菊間隆志准教授が講師を務め、発酵食品学科4年生1名も参加しました。

生徒たちは酵母の働きを体感するため、砂糖や塩の有無など条件を変えてロールパンを製作しました。手ごねの生地が発酵でふくらんでいく様子に、生徒たちは興味津々の様子でした。味の違いにも驚いており、「塩抜きパンは大きく膨らむけれど、少し物足りない」との感想が聞かれました。大学生と一緒にいったパン作りは楽しく、発酵の魅力を五感で学ぶ貴重な機会となりました。

上手に焼きました！



No 06

初の学外実習 (基礎看護学実習Ⅰ)

看護学科

はじめのいっぽ

〜亀川からナースのスタート、歩みははじめます！〜

本学看護学科の1年生が、令和7年8月5日から7日の3日間、地域の医療施設・高齢者福祉施設・児童福祉施設で初めての学外実習を行いました。今回の実習は、実際に『やってみる』ではなく、現場で日常的に行われている看護実践を『気づき、考える』ことを目的に実施しました。

本実習は保健・医療・福祉の現場に参加し、看護職の役割について幅広く見て、感じて、考える体験学習となりました。学生たちは緊張しながらも、「相手を理解し、思いに寄り添うこと」を実践する難しさや大切さを感じながら、看護職としての基本的姿勢を学びました。

机上の学びから一歩踏み出し、リアルな臨床の場を体験する本実習は、看護職者としての第一歩となる貴重な経験となることでしょう。

学外実習頑張りました!!



別府大学公開講座 「親子で楽しむ理科実験教室」

No 03

食物栄養学科

バナナを茶色くしないにはどうする？

〜いろいろな方法を比べよう！〜

令和7年7月12日、別府大学公開講座「親子で楽しむ理科実験教室」を開催しました。

6歳～11歳の子どもたち10人を含む9組の親子が参加し、バナナの褐変を防ぐ方法を学びました。

当日は「バナナを茶色くしないにはどうする?〜いろいろな方法を比べよう!〜」をテーマに切ったバナナの褐変の仕組みを解説した後、レモン果汁、塩水、氷のう、ラップを用いた比較実験を行い、経時的に色の変化を観察して結果を考察しました。参加者からは「面白かった」「家でも試してみたい」との声が寄せられました。理系人材不足が課題となる中、今回の取り組みが幼少期から科学の楽しさに触れるきっかけを提供し、科学(理科)に興味をもってもらう一助となれば幸いです。

どんな結果になるかな?



全国の学生がプレゼンテーション#5(西日本大会)

No 05

国際言語・文化学科

大学生生活の成長を語る

令和7年8月4日(月)第97回教育情報共有会「全国の学生がプレゼンテーション#5(西日本大会)」がオンラインで開催され、松榮桃々さん(英語・英米文学コース3年)が出場しました。本大会には西日本地域の6つの大学から各1名ずつが参加しました。

松榮さんは、「大学生活で成長したこと」をテーマに自身の所属している女子柔道部での経験を交えながら、練習の成果を発揮し堂々とプレゼンテーションを行いました。

惜しくも全国大会出場とはなりませんでした。が、今回の経験を通じて得た学びや成長は、今後の大学生活や部活動において大きな糧となることでしょう。

堂々とプレゼンしました!



No 01

史学・文化財学科

地域とともに歴史を学ぶ

学術発掘調査の現地説明会および発掘調査体験会

令和7年8月17日(日)、豊後高田市新栄に所在する大原古墳にて、学術発掘調査の現地説明会と豊後高田市内の小学生を対象とした発掘調査体験会を開催しました。

現地説明会には、本学史学・文化財学科関係者30名と一般の方30名の計60名が参加しました。

説明会では、本学術発掘調査担当者の玉川剛司准教授より、大原古墳の学術発掘調査の目的や概要、これまでの調査成果、そして今後の課題について詳しい説明を行いました。出土した鏡、

武器類と考えられる鉄器、管玉、埴輪などの遺物についても紹介され、参加者は熱心に耳を傾けていました。その後、実際に発掘を行った現場にて、本学の大学院生および学部生が調査内容の解説を行いました。

午後は、豊後高田市内の小学生を対象とした発掘調査体験会を開催しました。玉川准教授が大原古墳の概要と考古学と発掘調査について説明し、その後、史学・文化財学科の学生の補助のもと、実際の発掘作業を体験しました。子どもたちは貴重な体験に目を輝かせ

初めての発掘にワクワク



ながら、古代の歴史に触れるひとときを過ごしました。

今後も別府大学では地域の歴史と文化財の理解を深めるとともに、次世代の学びの場を提供してまいります。



説明を行う玉川准教授

国際経営学科

学生たち主体でSDGs啓発週間を展開

No 02

別府大学・別府大学短期大学部SDGs週間「SDGsのこと もっと知ろう! もっと考えよう!」

国際経営学科では、6月4日から13日までの10日間、別府大学・別府大学短期大学部SDGs週間「SDGsのこと もっと知ろう! もっと考えよう!」を開催しました。

本取り組みは、学生たちが主体となって取り組む授業「地域創生プロジェクト2」の一環として実施され、SDGsに関する様々な取り組みが行われました。学生たちは「SDGsは世界規模の問題だが、われわれ地域の1人1人が取り組まなければ実現できない」と呼びかけながら、一連のキャンペーンを実施しました。

国連の採択を受けて2016年から始

まったSDGsは2030年で終了します。国連が掲げた17項目を達成するためにも残る5年間でスパートをかけなければなりません。

SDGs週間中は公開授業における脱炭素などに関する発表や、大学正門前でのチラシ配布による啓発活動などを受講者24人全員で行いました。

また本学事務職員の支援のもと、学内の廊下ガラスなどにSDGsのロゴ17項目を張り付け、SDGsのぼり旗30本を学内に配置したほか、3号館横には横断幕も掲示し、キャンペーンを盛り上げました。

今回のキャンペーンは、「地域創生プロジェクト2」受講者はもちろん、多くの学生たちに「自分たちが動かないとSDGsは達成できない」ことを認識してもらう貴重な機会になりました。

1人1人が出来るSDGsを考えていきましょう!





准教授 司書課程
佐藤 晋之
Shinji Sato

研究室訪問 学びのトビラ Vol.23

別府大学の学びの最先端をレポートします。

プロフィール

専門はライブラリーサイエンス、図書館情報学。図書館による情報サービスや地域連携、アーティスト支援の在り方について研究を進めている。文化財や地域資源を活かしたイベントの企画・実施など学びと地域社会をつなぐ実践に興味がある。2019年より文学部司書課程講師として着任。



学生や司書講習の受講生から貰ったプレゼントや手紙。大切に保管しています。

静かな誇りに、ひかりが宿るとき ——図書館でひらかれる、小さな出会いの話

偶然の出会いと、ひらかれる読書の扉

私は、図書館について教えたり、研究したりしています。私の研究対象は、個人で活動するアーティストです。プロダクションや画廊に属さず、名前一つで表現を続けている人たちです。そうしたアーティストたちは、活動を知ってもらう機会が限られています。表現に力があっても、それが伝わらなければ、なかなか評価にはつながりません。信頼や関心を持つってもらうには、まず「出会い」が必要なんです。私は、図書館がその入り口になれるのではないかと考えています。本を借りるだけの場所ではなく、人やことば、表現と出会う場所として。たまたま立ち寄ったときに展示が目に入る、音が聞こえる。そうした偶然が、何かを変えることもあると思うんです。

図書館は「出会いの場所」になれる

令和3年3月に本学附属図書館で開催したコンサートに会場した年配の方が、ふとつぶやきました。「地元こんな素敵な演奏家がいたんですね……。なんだか、うれしいですね。」そのときの表情が、今も忘れられません。驚きと、ちよつとした誇らしさが入り混じったような、あたたかな空気。「このまちに、こんな表現をしている人がいたんだ」。その発見が、誰かの中に小さな灯りをともしることがあるのです。

地元の表現に出会うということ

「人が好きな司書」と出会いを支える仕事

こうした予期せぬ出会いには、名前があります。「セレンディビティ」。偶然なる素敵な出会い。私はこの言葉がとても好きです。図書館は、それを育てられる場所だと思っています。アートの触れた後、本を手取る人もいます。「もっと知りたい」「別の作品にも出会ってみたい」。そう感じた瞬間が、読書や学びの入り口になることもあります。



1 風を感じながら短時間で全く違う空間に行ける、最高の相棒です 2 学生時代によく通った表参道にあるカフェ「レ・ジュ・グルニエ」。文章を書いて自分と向き合ったり、様々な人と出会ったり、多くの学びを得た場所です 3 一時期はプロを目指すも挫折。ギターの傷を見ると昔を思い出して頑張れます。別府大学着任時、飯沼賢司先生に教わった「道草の哲学」から、挫折した経験こそが糧になることを学びました 4 始めたばかりの登山。低山登山がちょうどいい。フル装備で登ってます



～ Other sides of Shinji Sato ～

NO
07

短期大学部 食物栄養科

がんサバイバーの “食べたい”を叶える



旬の食材を使った手作りスイーツ



「がんサロン」での食事療法研究会の活動

大分県内では、NPO法人などが主催する「がんサロン」が各地で開かれています。本学食物栄養科の食事療法研究会は、令和4年度からこれらの「がんサロン」で継続的な活動を行っています。

がん治療中の方々は、病状や薬の副作用、気持ちの変化などにより、思うように食事ができないこともあります。そこで研究会では、栄養バランスに加えて、食べやすさやおいしさ、手軽さにも配慮したメニューを考案し、「がんサバイバーの“食べたい”を叶えるメニュー」として、3つのがんサロンで実際に試食していた

できました。

こうした活動の成果として、令和6年度「おおいた地域連携プラットフォーム」事業成果報告会では、自由枠の第1位を受賞する結果につながりました。

今年度は「旬の食材」をテーマに、がんに対する効能を紹介しながら手作りのスイーツをお届けしています。栄養士を目指す学生たちにとっても、現場での学びや出会いは大きな経験となっています。今後も研究会は、がんサロンでの活動を通じて、皆さまに寄り添いながら“食”を通じた交流の輪を広げていきます。



がんサロンでの発表中の様子

NO
09

第二次オリエンテーション アフリカンサファリ

令和7年5月24日、第二次オリエンテーションとして、初等教育科の1年生と教員でアフリカンサファリへ出かけました。

当日は神田岳委園長にご講演いただき、校外学習の安全管理等についても学びました。

「犬やネコは勿論、昆虫でも魚でも、命あるものには言葉を掛けてください。相手にはちゃんと伝わっているのです」という動物たちの生と死に直接関わりながら、動物たちと共に生きることを喜びとされている神田園長のお話は、何度聴いても心が揺さぶられ「教育の原点」を考えるきっかけを与えて下されます。

その後、ふれあいコーナーで学生たちはモルモットを抱き、体温を掌に感じながら、優しい表情を浮かべていました。

あいにくの天気にも負けず、学びある有意義な1日を過ごしました。



モルモットと触れ合う学生たち

NO
08

認知症 フレンドリー講座

令和7年6月4日、本学メディアホールにて人間関係学会主催の公開講座「認知症フレンドリー講座」が開催されました。

講師に認知症フレンドリー事業運営責任者である坂田一裕氏を迎え、認知症の症状や正しい理解についての講義と、VR(ヴァーチャルリアリティ)による疑似体験が行われました。

VR体験では、認知症の方にとって街の風景や日常の活動がどのように見えているのかを疑似体験し、共感を深める貴重な機会となりました。誰もが認知症と関わる可能性のある社会において、本講座は「ともに生きる」地域の在り方を考える契機となりました。今後も本学は、学びを地域に活かす取り組みを進めてまいります。



VRで認知症の方の視界を疑似体験

人間関係学科
認知症を正しく知る・感じる

Closeup! 別大生

進学理由や授業の様子を教えてください

幼稚園児の頃から、幼稚園の先生になりたいと思っていました。別大に決めたのは、オープンキャンパスで楽しかったから、在学中の先輩の話を聞きおもしろそうだと感じたからです。模擬保育の授業など、最初は苦手意識がありました。でも、みんなの意見・考え方に触れて抵抗感が薄まり、いろいろやるうちに慣れるものだと感じています。

おはなし研究会「ともだち屋」の活動とは?

大型紙芝居、劇、歌などを各地の幼稚園や施設で披露する活動をしています。学年を超えて仲もよく、いい雰囲気です。実際に子どもたちの前で披露すると、反応があつてとても嬉しく楽しいですね。子どもがいる想定で練習できるようになってからは、恥ずかしさもなくなりました。先輩のゲームや話の進め方、展開の持っていく方は勉強になります。



授業で取り組んだ演劇的表现



高校時代から続けているマーチングバンド

クローズアップ

短期大学部
初等教育科 2年生
小倉 海音 さん
(大分県立大分商業高等学校出身)

授業以外の時間や休日はどう過ごしていますか?

学校帰りは友達とご飯を食べたりカラオケしたり、居酒屋のバイトもしています。高校時代からマーチングを続けており、今は別府の社会人団体に所属。バッテリーというスネアドラムを担当し、週に3〜4回は練習しています。毎年別府で開催するマーチングパレードにも出場しますよ。休日も動いていることが多いかもしれません。

将来の夢を聞かせてください

幼稚園の先生を目指しています。勉強するほど、事件やケガなど楽しいだけではない側面を知り、自分には無理かもと思いました。でも、仲間や先生たちの励ましで、前向きになれています。園の実習では子どもが歩けるようになる瞬間に立ち会い、その喜びを今でも覚えています。日常の些細な変化に気づき、個人に合わせた援助ができる先生になりたいです。

食物栄養科学部
食物栄養学科
2年生
日野 綺音 さん
(大分県立由布高等学校出身)

勉強にバトンと多忙ですがどんな生活を送っていますか?

バトンは4歳から教室に通い始め、今練習は週に5回、3〜5時間くらい。大会が近づくと毎日練習になります。学校では9人グループで行動することが多いですね。一緒に授業を受けたり、カラオケに行ったり、休日に遊んだり。居酒屋でバイトもしていますし、音楽が好きなので休日に友人のライブに行くこともありますよ。

これからどんな道を目指しているのでしょうか

ずっとバトンをしてきて、体重や体型管理の大切さを感じています。生きるうえで、誰にとっても食は大切。管理栄養士として、いろんな方面から人を支えたいです。スポーツ栄養士になって、食の面からスポーツする人を支えたい気持ちもあります。今、教職も受けていて、それを活かして「小さいこどもに栄養を教える」ことにも挑戦したいですね。

バトントワーリング世界大会日本代表おめでとうございます

ありがとうございます。実は大学の進学を決めるタイミングで、バトンをやめようかと考えたことがあるんです。でも、バトンのペアである渡邊結愛ちゃんが別大に在籍しているし、本学で勉強したいこともあったので、バトンを続けると決意。結愛ちゃんとは5年生のときからペアで支え合って練習し、本番前はお互いに「いつも通りやれば大丈夫」と励ましあっています。

学校で学んでいる内容や勉強方法などを教えてください

最近では胎児から高齢者まで、年齢によって必要な栄養素について学びました。日々、知識を吸収できるておもしろいです。食材選びは栄養を意識するようになりました。地道に「書いて覚える」勉強法を実践中。年に2回ほど先生と面談があり、今の生活状況や今後どの研究室に入るか、将来の話など、何でも相談しやすいので助かります。



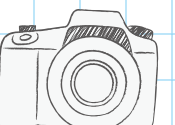
イタリアのトリノで世界大会出場



友達9人とクリスマス会を開催

恥ずかしさは「慣れ」で克服
個性を大切にできる先生になりたい

バトンも勉強もバイトも遊びも
全部楽しむ学生生活



地域連携



令和7年4月23日、佐藤樹一郎大分県知事を講師にお迎えし、今年度入学した1年次生を対象に講演会を開催しました。当日は、学生・教職員合わせて約570名が参加しました。

本学には県内出身の学生が多数在籍し、卒業後も県内で就職する学生が多くいることから、本講演会は、大分県の現状についてより深く知ることを目的に開催されました。

講演会では、「[安心・元気・未来創造ビジョン]実行元年」をテーマに、現在の県が抱える課題や県庁の施策、さらには未来に向けたビジョン等をお話いただきました。学生諸君は大変熱心に知事の話に耳を傾けていました。

講演後、知事には学生からの質問に丁寧に答えいただき、講演会は盛会のうちに終了しました。

「佐藤樹一郎大分県知事による講演会」を開催



(株)西石油グループとの包括連携協定を締結



協定書を持って写真を撮る西貴之社長(左)と友永植学長(右)

令和7年7月18日(金)、別府大学・別府大学短期大学部は(株)西石油グループと「包括連携協定」および「教育活動に関する覚書」を締結しました。締結式には、西石油グループ代表取締役社長・西貴之氏、本学学長・友永植をはじめ、両者の関係者計16名が出席しました。調印後、西貴之代表取締役社長より「教育活動を通じて、未来ある学生の可能性を助けられる一助を担い、さらなるお互いの発展のために共に歩んでいきたい」とご挨拶をいただきました。

今後、本学と(株)西石油グループは、教育・研究・地域貢献の各分野において連携を深め、地域の未来を担う人材の育成と、持続可能な地域社会の実現に向けて、積極的に取り組んでまいります。

「健康寿命日本一おうえん企業」に登録されました



禁煙リーフレットを別府駅で配布しました



大塚製薬と共同で食育月間の周知とカロリーメイトを正門で配布しました

令和7年6月13日(金)、別府大学は大分県民の健康寿命日本一への取り組みを支援する「健康寿命日本一おうえん企業」として登録されました。本学は、これまで「うま塩・もっと野菜」の普及啓発や、大学生の食生活改善を目的とした「学生食育推進サポーター(FES)活動」など、大分県民の健康増進に係る取り組みに参画にまいりました。

今後も多方面からこの取り組みに貢献すると共に、地域と連携しながら、県民の健康づくりに積極的に取り組んでまいります。

B's キッチン

なごみ

人気メニューランキング

1位 日替わり定食

2位 汁なし担々麺

2位 カレーライス

1969年竣工の歴史ある3号館で営業中の「なごみ」。以前は「喫茶3号館」という店名だったそうで、当時はピラフ、カレーライス、そして「箱弁」と呼ばれるお弁当が人気だったそうです。現在も美味しいメニューを楽しみながら、学生・教職員が交流できる憩いの場としてキャンパスライフを彩っています。



今日はどっちで食べる？

学食探検隊が行く!!

別大生の胃袋を支えるふたつの学食、B'sキッチン「なごみ」と「36」。ランチタイムには学生たちが列をつくる光景はおなじみです。どちらも学生のおサイフに優しい価格帯でありながら、その美味しさ満点のメニューに大満足♪ vinculumでは学食人気メニューのアンケートを実施! お食事中の別大生にインタビューも行ってきました!

B'sキッチン

ココが

推し!

お手頃な価格なので財布に優しい!

どの日替わりも美味しい!

学生広報のストーリーに学食が発信されるので日替わりが食べたくなる!

毎日メニューが変わって種類が豊富なので飽きない!

ショーケースの中にあるサンプルが美味しそうで惹かれる!

B's キッチン

サブロー

36

人気メニューランキング

1位 日替わり定食

2位 から揚げネギまヨ井

3位 から揚げ定食

その名の通り36号館1階にある「36」。食物栄養学部の学生や職員が多く利用して、明豊高校の剣道部やソフトテニス部に所属する寮生が朝夕の食事会場にもなっています。「なごみ」と「36」では提供されるメニューが異なり、日替わり定食も毎日違うので、気分次第で好きなキッチンを選べます。



from Vinculum

今回の「V・Link」はいかがでしたか?

学生広報「Vinculum」は、より多くの人に大学の魅力を知ってもらうため、Instagramを通して大学や学生の活動、イベント情報等を学生目線で取材し発信しています。一緒に活動してくれるメンバーも募集中!



最新情報は
Instagramでチェック!
@BEPPIU_GAKUSEI_KOHO_

こんなメニューが欲しいかも

オムライス
親子丼
そば
ロコモコ丼
トリニータ丼
アサイーボウル

アイスやケーキなどのデザート



学校法人別府大学 令和6年度事業報告

I 事業の概要

令和6年度は、学校法人別府大学第3期中計計画の3年目にあたり、学生支援センターの設置や看護学部設置認可など、計画達成に向けた重要な年となりました。特に、教育力の強化、地域連携の推進、組織ガバナンスの強化、経営基盤の強化という重点目標に積極的に取り組みました。

①教育力の強化

大学、短大では、学生の学修成果を評価するためのアセスメント改善や授業改善に向けたFD(Faculty Development)を実施し、アセスメントポリシーを見直すことで教育の質の向上を図りました。短大では、クリティカルシンキングやロジカルシンキングの授業を導入し、学生の思考力・文章力の育成に注力しました。また、「数理データサイエンスA I教育プログラム」は、文部科学省からより高レベルの「応用基礎レベル」の認定を受け、情報教育をさらに充実させています。学生支援については、修学を含む諸問題に迅速

に対応できるよう、令和6年4月に学生支援センターを設置し、活動を開始しました。令和7年度開設を目指していた看護学部は、令和6年8月に設置認可を受け、第1期生は定員80名に対し83名が入学しました。キャンパス環境の整備では、国立医療センター(別府市亀川内)内に看護学部の実習・研究室棟が令和7年1月に完成しました。学習環境の整備としては、32号館、34号館、39号館のプロジェクトや音響設備を更新し、安全確保のため33号館外壁タイルの点検調査なども行いました。

②地域連携の推進

8月・9月の豪雨災害時には、由布市や国東市へ学生ボランティアを派遣し、被災した民家の土砂搬出作業などを支援しました。その他にも地域のボランティア活動やイベントに積極的に参加しました。史学・文化財学科では、杵築市の民族調査実施から地元での調査報告会開催など、自治体との数多くの連携活動を実施しました。

産学官連携で取り組む「おおいた地域連携プラットフォーム」では、短大食物栄養科が別府医療センターと協力して実施した「がんサバイバーの『食べたい』を叶えるメニュー提案」が1位を獲得

しました。さらに、別府市教育委員会と協力して「地域文化財と大学博物館を活用した人材育成」を行うなど、別府市、由布市を含む地域で計13事業に取り組みました。

③組織ガバナンスの強化

法人全体では、理事会、評議員会のほか、定例役員会、所属長会議、事務会議などを定期的に開催し、情報の共有とバランスの取れた意思決定に努めました。また、予算執行や業務運営の適正性を高めるため、監事監査、会計監査人監査、内部監査を実施しました。大学、短大では、教授会などを計画どおり開催するとともに、大学企画運営会議、短大企画運営会議を毎月開催し、迅速な意思決定に努めました。

④経営基盤の強化

収容定員充足率の高水準での確保や、第3期中期計画の主要数値目標の達成に取り組み、財政基盤の強化に努めました。(詳細はこの後の「II 財務の概要」に記載しています。)

II 財務の概要

「事業活動収支計算書」は、企業会計における損益計算書に相当し、本法人における令和6年度

事業活動収支計算書

(単位:百万円)

科目		予算(A)	決算(B)	差異(B-A)
教育活動収支	収入			
	学生生徒等納付金	2,716	2,717	1
	手数料	40	46	6
	寄付金	33	34	1
	経常費等補助金	1,491	1,547	56
	付随事業収入	339	362	23
	雑収入	153	225	72
	教育活動収入計	4,772	4,931	159
	支出			
	人件費支出	2,813	2,854	41
教育活動外収支	教育研究経費支出	1,523	1,467	△56
	管理経費支出	672	637	△35
	徴収不能額等	7	6	△1
	教育活動支出計	5,015	4,964	△51
	教育活動収支差額	△243	△33	210
	収入			
	受取利息・配当金	135	155	20
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	135	155	20
	支出			
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額	135	155	20
《経常収支差額》		△108	122	230
特別収支	収入			
	資産売却差額	0	30	30
	その他の特別収入	21	22	1
	特別収入計	21	52	31
	支出			
	資産処分差額	14	14	0
	その他の特別支出	0	143	143
	特別支出計	14	157	143
	特別収支差額	7	△105	△112
	予備費	10	0	△10
基本金組入前当年度収支差額		△111	17	128
基本金組入額合計		△171	△196	△25
当年度収支差額		△283	△179	104
前年度繰越収支差額		311	311	0
基本金取崩額		186	213	27
翌年度繰越収支差額		214	345	131

(参考)			
事業活動収入計	4,928	5,138	210
事業活動支出計	5,039	5,121	82

学校法人別府大学
教育研究振興資金の募金について

令和6年度別府大学教育研究振興資金にご寄付いただきました方々に厚く御礼申し上げますとともに、感謝の意を込めて、ここにご芳名を掲載させていただきます。なお、ご芳名の公表を希望されない方につきましては掲載しておりません。

【令和6年度】(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

(個人)	青木 丈一朗 様 池内 喬貴 様 梅田 正嗣 様 川村 武男 様 黒木 千鶴子 様 後藤 鉄也 様 篠原 努 様 島田 康 様	下津 敏孝 様 首藤 英治 様 高倉 慶一 様 寺本 和行 様 得丸 正義 様 平松 千鶴子 様 藤田 敬二 様
(法人)	南光物産株式会社 様 堀野 昌弘 様 山元 博士 様 豊東 三千雄 様	吉田 大輔 様 米澤 裕介 様 渡邊 光 様 秦 正彰 様

(五十音順)※教職員を除く

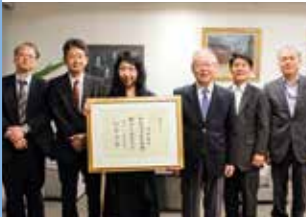
I BTF世界
バトントワリング選手権
大会で世界第2位!!

令和7年8月8日(金)から10日(日)にかけて、イタリア・ミラノにて開催された「I BTF世界テクニカルバトントワリング選手権大会」に国際経営学科3年の渡邊結愛さんと、食物栄養学科2年の日野綺音さんが日本代表として出場し、デュエット(シニア部門)で2位、アーティスティックペア(シニア部門)3位という素晴らしい結果を残しました。



浅野 則子氏(別府大学元教授)
に名誉教授を授与

令和7年5月12日、浅野則子氏に名誉教授の称号が授与されました。浅野氏は平成9年より28年間にわたり、日本文学のエッセイ・研究に尽力し、特に万葉集研究の第一人者として高く評価されています。また、図書館長や大学院研究科長などの要職も歴任し、大学の発展に大きく貢献されました。授与式では、友永植学長より称号記が授与され、功績への感謝と祝辞が述べられました。



別府市制100周年
別府市誌が発刊されました

令和7年3月31日、別府市の市政施行100周年を記念し、別府市誌が発刊されました。本誌は「通史編」と「図鑑編」の2部構成で、英語版も作成されました。執筆・編集には本学の飯沼賢司名誉教授をはじめ、多くの本学教員や関係者が携わりました。県内書店や市役所で販売され、5月1日よりデジタル版も別府市HPにて公開中です。



今年も参加!「第111回
別府八湯温泉まつり」

令和7年4月1日～6日、「第111回別府八湯温泉まつり」が開催され、最終日にはメインイベントの「湯ぶっかけまつり」が行われました。今年も本学の学生・教職員有志24名と明豊高校「地域盛り上げ隊」の生徒10名の計34人が参加しました。地域の方々と交流しながら、別府八湯の豊かな温泉のめぐみに感謝する機会となりました。



別府大学看護学部開設
記念講演会を開催

令和7年6月15日、JCOMホール大分にて「看護学部開設記念講演会」が開催されました。本学看護学部の教育理念やカリキュラムの紹介の後、鈴木克明氏(武蔵野大学響学開発センター教授)と浅香えみ子氏(日本看護協会常任理事)による記念講演が行われました。学生や看護関係者が多数参加し、看護教育の未来を考える有意義な機会となりました。



作品展『まんが油屋熊ハ
クニ・トシロウいたずら描き展』
オープニングイベント

令和7年6月6日～25日、別府大学歴史文化総合研究センターにて、作品展『まんが油屋熊ハ・クニ・トシロウいたずら描き展』が開催されました。オープニングイベントでは、田代しんたろう客員教授をファシリテーターに、クニ・トシロウ氏が「まんが人生」を語り、アニメ『笑ウせえるすまん』の制作秘話やマンガとアニメの違いなど、貴重な話が披露されました。



編集後記

秋号より広報誌の編集を担当することになりました。「元・香りの王子」です。今回の特集「井就活はじめます!」では、企業が求める人材像の解説、卒業生の就活体験談、現役3・4年生のリアルな声、キャリア支援課のサポート体制を紹介しています。就職活動は人生の大きな節目。不安や悩みに寄り添い、前向きな一歩を踏み出すきっかけとなることを願っています。皆さんの挑戦を心から応援しています。ぜひ二読ください!



HP

Facebook

Be-Newsは
HPでもご覧いただけます。

Be-Newsへのご意見・ご要望がございましたら、下記までご連絡をお願いいたします。

別府大学・別府大学短期大学部 広報室
〒874-8501 大分県別府市北石垣82

TEL : 0977-66-6262
E-mail : koho@nm.beppu-u.ac.jp